

2019年度事業計画

学校法人 沖永学園

1. 学園の現状と基本方針

沖永学園は、創立以来社会のニーズに応えるため組織の設置・改善を重ね、現在では短期大学1・高等学校1・中学校1・幼稚園2を擁している。「礼儀・努力・誠実」を建学の精神とし、帝京大学グループとしてのメリットも生かしつつ、人格を磨き社会で役立つ実学を重視する。

2. 教育研究に係わる課題と方針

(1) 帝京短期大学

①生活科学科

<生活科学専攻養護教諭コース・専攻科養護教諭専攻>

養護教諭に必要とされる資質・能力を磨くために授業以外に渋谷区の小学校をはじめ、地域の子ども食堂や福祉施設など多様なボランティア活動を取り入れ、実践的な学びや子供理解を深められるようにしている。授業では、文部科学省の規定を上回る独自の授業を取り入れ、体験学習や演習を充実させ、一人職種である養護教諭が現場に出てすぐに仕事ができる力をつけられることを目指している。採用試験対策やリカレント教育にも力を入れ、卒業生を対象にした教育も継続して実施している。しかし、2年間の教育では補いきれない部分もあり、学生によってはさらに学びたいという希望を持つ学生もいて、専攻科を設け1種免許の取得とより高い能力を身につけられるようにしている。

<生活科学専攻生活文化コース>

学生の社会性育成プログラムの精度を高めるため以下のように改善する。⑦地域づくりの科目を新設し、地域貢献ボランティアの実践部分の指導を強化する。⑧生活文化演習では、情報収集能力等社会性を高めるための必須能力の開発に取り組む。⑨また、生活文化演習で展開しているプロジェクトチーム制を3つの主な活動に導入し、学生の自主的な地域貢献を推進する。⑩観光業は関連業界が多いことや就職活動に繋げるという観点から、1年生時のインターンシップに加え、本年度も2年生時に観光ゼミ研修を実施する。⑪渋谷区とのS-SAP事業において、近隣商店組合や自治会との協定の下での花コミュニティー活動や地域イベント参加等、これまで通り地域社会とのコミュニケーション促進を継続する。⑫一方で、国及び東京都のオリパラボランティア事業、特に渋谷区内9大学連絡会による連携事業に参加し、学生の地域社会性をさらに高め、⑬それが具体的な就職に繋がる教育活動を進める。

＜食物栄養専攻＞

2018年度の事業計画を継続し、給食管理実習校外の学習成果を良好に獲得するため、給食管理実習校外の事前・事後指導の充実を図る。特に教員と学生および学生間のコミュニケーションを十分に行い、学生個々が実習での学習成果を獲得する。また、将来栄養士として仕事に就くための心構えおよび専門知識を習得するようにする。2018年度は、就職、進路において大変良好な結果であった、2019年度もキャリアサポートセンターと常に連絡をとり、就職・進学活動を支援する。学生が取得した資格および習得した専門知識を活かした進路に進めるようにする。

②こども教育学科

学生の現場対応力強化を重点課題とする。具体的対応としては、渋谷区の教育委員会および子ども家庭部の協力による、実習に向けての第一歩として幼稚園・保育園での1日参加実習での事前指導および、ボランティア活動への参加、また、帝京こども教育研究会(2009年発会・年2回実施)に参加し、講演・グループ幼稚園(4園)の研究発表を聞き現場を知る。さらに、キャンパス内にある帝京めぐみ幼稚園で空き時間を利用した体験実習を行い連携を充実させる。キャリアサポートセンターと連携し公務員試験受験指導に力を入れる。

③ライフケア学科

＜臨床検査専攻＞

2016年度から始まった新カリキュラムが4年目となるが、学生の基礎学力の低下が著しく2018年度の留年率、退学率はこれまで以上に高い数値となった。大学入学までの学習習慣のなさや知識、計算力の欠如を入学後の3年間で取り戻し、更に国家試験合格レベルに導くためには、入学当初から教員が総力をあげて地道に指導していく以外に改善の道はない。高校時より急に増える学習量に対応できず、精神的に追い詰められる学生も少なくなく、学習面・精神面の両方からのサポートが必要となってくるため、保健室とも連携しながら学生支援に努める。基本的な学習法の指導の上に確実な知識の定着を図るため、昨年度から実施している実技試験を本年度も実施していく。

＜専攻科臨床工学専攻＞

学位授与の要件を満たす専攻科として25年度から大学評価・学位授与機構(現大学改革支援・学位授与機構)の認定を受けている。臨床工学専攻では、広汎かつ高度な専門知識を有する人材を育成するために、工学の専門知識や技術ならびに医学の幅広い知識を修得できるよう授業の充実を図り、国家資格取得を目指す学生の専門性をさらに高める。次年度では、より充実した教育指導を行うために新たな計画としてスモールグループによる担任制を設置し、学習計画から生活・進路指導まで充実した指導を行う。さらに、各試験(学内模試9回、全国統一模試3回)の見直しの強化および学会検定試験の取得を目指し、最終目標とする国家資格取得に向けその向上を図る。

＜柔道整復専攻＞

2019年度は学校指定規則の改正に伴う新カリキュラム導入2年目を迎える。新カ

リキュラムより、基礎医学教育強化を目的とした解剖系科目、および基礎的な実技技能向上を目的とした固定法各論の授業が1年次から導入された。このことで、柔道整復師の資格が医療資格であることを入学者に早期より再認識させ、資格取得へのモチベーションの向上に寄与できたと考える。今年度は国家試験の形式が大幅に改正される。基礎教科、専門教科ともに授業内容を対応したものにそれぞれ変更していく予定である。また、従来より取り組んでいる客観的臨床能力試験を再整備し社会で必要とされる「治す力」を備えた学生の育成を目標に指導継続していく。

④通信教育課程

説明会、卒業生(同窓会)等を通じて学生募集活動(特待制度を含め)を強化する。就職希望者に対する情報提供、フォロー体制を強化する。入学オリエンテーションの充実を図るとともに、在校生に対して、学生便覧、サブテキスト、帝短通信・担任等を通じてレポート作成のポイントや注意点等への学習指導を充実させる。

(2)帝京八王子中学・高等学校

知・徳・体の全人教育を、生徒の個性と発達段階に即して行い、健全な育成を期することを教育目標とする。努力をすべての礎として、教育目標達成の手段として校訓『礼儀・努力・誠実』を定め、入学した生徒が一人の例外もなく大きな成長を遂げて卒業し、更に希望進路を実現できるよう、面倒見よく愛情に裏打ちされた厳しさの中にも暖かさをもった教育・指導・助言を行う。

また、2020年教育改革や2021年度中学校学習指導要領改定、2022年度高校学習指導要領改定など、対応すべき変化が今後目白押しとなっていることから、教職員も積極的に研修を通じて知識や能力の向上をはかる。

語学研修だけでなく、実用英語検定受験必須化、短期ターム留学の推進、海外短期留学生受入等を推進し、併せて本校の国際理解教育を広く周知させる広報活動にも工夫改善を行うことで、本校の教育に適性を持つ生徒のより多くの入学を実現させる。

(3)帝京めぐみ幼稚園

遊びを中心とした生活を通して、一人ひとりに応じた総合的な指導を行う。そのためには、幼児理解に基づいた計画的な環境の構成によって幼児が主体的に取り組み、遊びへの意欲を持てるようにする。具体的には、身近な動物への触れ合いを通して「思いやり」「優しさ」の心を育み、命の大切さを学ぶ「動物介在教育」を引き続き実施する。また、帝京短期大学食物栄養専攻学生による給食を取り入れた食育を実施している。さらに、短大キャンパスを利用した活動や自然体験、花壇や畑作業、地域の小中学生の職場体験受入や幼稚園内外の様々な人々とのかかわりなど、社会体験、直接体験のできる場を取り入れる。

(4) 帝京にしき幼稚園

「よくみる・よくきく・よくする」をモットーに、遊びを中心にしながら多様な体験を通して、個を発揮し礼儀正しく思いやりのある子どもの育成を目指す。そのために幼児理解を基盤とした計画的な環境に構成し、指導内容の充実を図る。具体的には、指導計画を立案し、評価の充実を図り、幼児の発達を見通してそれぞれの時期に必要な教育内容を明らかにした計画性のある指導を行う。また、園行事や日常の活動を通して造形、身体、音楽などを表現する楽しさや感動する心を育てる。

3. 教育環境の整備

帝京短期大学では、導入から6年を経過し更新時期を迎えている、学務システムと学生用コンピュータシステム(42教室、学生支援室、給食の運営と管理実習室Ⅱ、及び図書館)のコンピュータ、及びネットワークシステムの更新を予定している。学務システム更新では、学生情報、履修登録、シラバス等の充実化及び一部サーバをクラウド化してシステムの安定性と安全性の向上を図る。連動する証明書自動発行機も同時に部分更新する予定である。学生用コンピュータシステムは、学生の多様なICT利活用に対応すべくコンピュータ及び支援環境となるネットワーク環境の充実化を図る。

帝京八王子中学・高等学校では、2014年6月に竣工した、新体育館「蔦永館」が日々の体育の授業やクラブ活動はもちろん、さまざまな講演会、吹奏楽部、ダンス部の発表会など多目的に利用されており、保護者や一般の来場者にも教育環境のアピールを行っている。また、教職員が、より個々の生徒へ接することができるように業務改善を図り、新たに教務システムを導入することを検討する。

帝京めぐみ幼稚園では砂場の抗菌砂の入れ替え、園庭の整地等、園児の健康により配慮した保育環境を整備する。

帝京にしき幼稚園では、教育内容の充実につながるよう各保育室の保育環境を整えていく。また、引き続き園児・保護者の利便性と安全性を高めるため、園バスの買い替えを予定している。

4. 学生支援の充実 (帝京短期大学)

学生の心身の健康問題の対応・学習支援・進路選択をトータルで支援していけるよう、各部署の教職員で構成された学生相談支援委員会で学生情報の共有を図り適切な対応につなげていく。健康面では、保健室に複数の養護教諭を配置し、個々の学生の対応を丁寧に行うことで、心身の問題の早期発見や対応につなげていく。また、より専門的な支援が必要な学生に対しては、帝京平成大学臨床心理センターで支援を受けられるよう連携を図る。さらに、予防教育の一環として、全新入生を対象とした性教育特別講義の実施や、保健だよりの定期発行を行い、健康への意識向上を図る。学習面については、2017年度より学習支援員を配置し、学習面で課題を抱える学生の個別支援を開始した。2018年度は週1日の定期的な支援を充実させた結果、学生の成績や

意欲等にも変化が表れている。様々な背景を抱える学生への対応と適切な支援を提供するためにも、教員研修を継続的に実施していく。

就職・進路指導にあたっては、キャリアサポートセンターが中心となって就職対策委員会の担当教員との連携のもと学生をこまめにフォローすることで、実就職率 85% 以上を目標としている。学生面談を実施し、適宜状況をフォローし就職・進学をサポートしていく。また、授業(社会人入門セミナー)での外部講師招聘や新卒応援ハローワーク等との連携等により就職指導の充実を図るとともに、内定者を囲んだ座談会や学内合同企業説明会等の機会も設けていく。

5. 学生募集計画 (帝京短期大学)

アドミッションポリシーに合致した学生を受入れるため、8月から3月にわたりAO、推薦、一般、社会人など多様な入試制度とともに、大学入試センター試験利用入試においても募集していく。対面イベントとしては、2018年度より早期開催、開催回数を増やし、5月に高校3年生と保護者を対象とした入試説明会、6月～10月にオープンキャンパスを実施する。3月には高校2年生を対象とした春のオープンキャンパスを実施し、次年度の対面イベントに繋げていく。また、入試広報課職員のみならず教員も高校訪問を行い、本学の教育内容を説明するとともに募集活動に努めている。

インターネットやスマートフォンの普及に伴い、広報活動も新聞や雑誌等の紙媒体からWeb媒体への広告に移行をすすめ、特にホームページにおいてはこまめな情報の更新に努めていく。さらに、見学者や電話の問い合わせに対し、懇切丁寧な対応をすることで志願者の増加に繋げていく。

6. 地域社会への貢献 (帝京短期大学)

渋谷区とのS-SAP協定も3年目に入り、来年度に迫ったオリンピック関連事業や渋谷区の公開講座事業であるハチ公大学への協力等、連携大学への協力要請は膨らみ始めた。これらの要請に応え帝京短期大学の渋谷区づくりを整備していきたい。現在、帝京短期大学のS-SAP事業としては「ささはたっこ(こどもテーブル)」や「六号坂花コミュニティ連絡会による『おとなりサンデー』」が登録されている。本年度は「六号坂花コミュニティ」に渋谷区公園事業課の認可により六号坂上公園の花壇整備事業を加える。他に「ささはたカフェ」や「東京ふれあいロードプログラム下での地域美化活動」、「ササハタハタフューチャー(渋谷区後援)(ササハタ地区活性化事業)」、「代々木警察ボランティア隊」、長年積み重ねてきた「地域のイベント支援(渋谷フェスティバル参加など)」などを継続する。これらの事業展開によって学生の就職力を支援する。

7. 自己点検・評価 (帝京短期大学)

2019年度の自己点検・評価は、教職員全員がPDCAのシートを活用して行う。加えて各委員会へもPDCAシートを用いて自己点検・評価を実施し、検証していく。2018年度

より学習成果報告書は、全科目について実施したが、2019年度も継続して学習成果報告書の作成を全教員へ依頼し、事業改善に繋げ、学生の学習成果の獲得を向上させる。

8. 2019年度予算の概要

(1) 収入

帝京短期大学の学納金は、入学者数減少により前年度予算比減収の見込み。帝京八王子中学・高等学校は在學生数減により前年度比減収、帝京めぐみ幼稚園、帝京にしき幼稚園の学納金はほぼ横ばいを見込む。学校法人全体では、学納金は前年度予算比減収の見込み。

(2) 支出

帝京短期大学のパソコン、システム更新による施設設備の支出と、各学校・幼稚園とも給与改定・定期昇給による人件費増を見込む。

(3) 事業活動収支差額

事業活動収支差額は、収入減少、人件費増により前年度予算比減少となるが、学校法人全体ではほぼ収支均衡の見込みである。

以 上